

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393800103		
法人名	株式会社 イズミ		
事業所名	グループホーム 希望の泉(1階Aユニット)		
所在地	愛知県小牧市小牧原二丁目340番地		
自己評価作成日	令和5年3月1日	評価結果市町村受理日	令和6年4月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyoNoCd=2393800103-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和5年3月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設理念1、笑顔がいっぱい・笑いがいっぱいの希望にあふれる施設を目指します。
 2、常にご利用者様、ご家族様の気持ちを第一に考えます。
 3、地域に信頼される施設作りを目指します。
 開所以来ずっとこの施設理念を職員一人一人が理解し介護しています。
 入居者が心地よく、安全、安心して生活できることを最低限の使命とし、それ以上の生活の質の向上に努めるようにしています。ホーム、職員都合を厳しく戒め、入居者、家族ファーストで対応できるように努めます。
 当たり前のことを当たり前と、入居者、家族、職員、他関係者が思えるようなホームにしていきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者赴任から1年半、体制づくりも順調に進捗している。研修・勉強会・指導の必要性を理解し、リーダー育成を課題とするも、コロナ禍で思うようには教育が進まない現状があり、その現状こそが課題となっている。この5月にコロナが5類感染症になり、自粛緩和が図られたら、いよいよ体制の締め直しにかかる。意欲を燃やしている。まずは、利用者本位の介護計画に沿った支援、自分の考え方より利用者の気持ちを大切に、利用者ファーストを日常的に指導して行く思いがある。
 支援面では、3食手作りの家庭料理が自慢である。いつもどこかで笑い声があり、アットホームな雰囲気、居心地の良いホームを目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に施設理念を掲示し、適宜確認している。 介護現場では、理念に添えるように対応するとともに、相互に確認している。	ホーム理念(施設理念)を掲示し、意味と意義の理解を推進している。開設以来の理念であり、職員に浸透している。まずは、利用者ファーストの考え方の周知を図り、支援につなげるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ下において、外部、地域とのつながりは遮断されている状況。今後の施策により、柔軟に対応していく予定。	コロナ禍の自粛が続く、地域との交流はほとんど機会がない。5月のコロナの5類感染症の緩和を待ち、交流再開を考えている。散歩に出たら、挨拶や立ち話をしたり、近隣からの到来物があるお付き合いは継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	上記同様、外部との接触はほぼない。但し、電話等での相談には適切に対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	対面会議の開催ができていない(小牧市内で対面を実施しているホームは、一つのみと聞いている。最終会(2月開催)の報告とともに、出席者へのアンケートを実施した。	コロナ禍で、この1年は6回全てを書面開催としている。メンバーに議事録を配布し、意見を募っている。この1年は特段の意見や提案もないことから、来期の対面会議再開に期待している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議内容の書面報告、事故報告書の提出など行っている。	市の担当部署とは、ホームの運営にかかわる相談・報告を通じて、適切に連携している。運営推進会議議事録、事故報告等の提出等、報告には直接出向いている。相談員の受け入れでも連携がある。地域包括支援センターとは、途絶えた関係修復を予定している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。 会議や研修にて、身体拘束について、周知徹底している。	身体拘束適正化委員会を設置し、概ね3ヶ月毎に委員会を開催、検討会を実施している。職員には会議や勉強会、資料配布で内容を周知している。基本的に拘束は行わない方針があり、職員はそれをよく理解し、身体拘束をしない工夫を話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	定期的な虐待防止についての資料配布に留まっている。また、日常的に管理者が確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見人のある入居者が2名いる。後見人との連携を密にし、後見人の業務内容の把握に努めている。また、職員への周知もやっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人、家族への説明を徹底しているとともに、書面での確認をしている。 不安、疑問のないように対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の意見・要望は、電話や面会時聴取している。	ホームのコロナ対応・対策では、家族から様々な問い合わせや意向・提案が寄せられ、家族の心配に配慮し、真摯に対応してきた。5月の緩和から、新しい関係づくりをスタートする予定でいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケアアプリでの意見交換、日々のコミュニケーション、朝礼、ミーティング、職員会議等にて実施している。	毎月の職員会議、ユニット会議、ケアカンファレンス等、職員の意見表出の機会を作っている。管理者は、職員が何でも意見として発言ができ、職員間で話し合える職場環境整備に取り掛かっている。	職員が意見は言えるが、集約ができない、結論が出せないという現状があることから、職員をまとめるリーダー育成が急務であると言える。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価を年2回実施。職員との面談を通じてお互いの課題、改善点を協議。他、年末年始手当、夏季特別休暇有。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の施設長会議にて、各ホーム内の状況の把握及び改善点等の意見交換を実施。また、人事評価にて各スタッフの状況を把握。法人内研修の実施。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の介護事業所連絡会に所属。定期的な会合、連絡会主催の会議、研修会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族からの聴き取り、状況把握に努めている。介護計画の作成、実施、モニタリングの実施。定期的な要望等の聞き取りを、計画作成者を中心に行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人、家族からの聴き取り、状況把握に努めている。また、サービス開始直後は、特に連絡を密にとり、状況の説明、家族からの要望を聴き取るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	優先順位を確定し、遅滞なく実施しているように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームの理念に基づき一方的な介護にならず、共に生活を送る同士としての関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会、電話、手紙等のコミュニケーション手段を制限せず、本人、家族の関わりを絶たないようにしている。家族の意向、本人の意向、職員の意向の調整を図るようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ下において、制限あり。但し、できる限りの手段(電話、手紙、面会、遠隔面会)で可能な限り対応する努力をしている。	コロナ禍の自粛は続き、手段を考え、方法を工夫して、何とか家族関係が途切れないように、家族面会を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共に生活する仲間として、各人が各人を尊重し合い生活できるように援助している。但し関係上、好き嫌いの問題もあり、事前にトラブルにならないように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去家族からの、他者の入居相談等あり、できる限り関係作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画作成者を中心に、本人、家族、職員と連携をとりつつ、本人の意向を第一に考えるようにしている。聴き取りの難しい方については、それまでの生活歴等も考慮に入れつつ、検討している。	職員は、日常のかかわりの中で知り得た利用者意向を、ケアカンファレンスで共有している。職員それぞれの様々な視点があり、本人の意向に沿った支援内容になるように、検討している。	職員は、意見は言えるが、利用者の意向に沿った支援内容の立案に課題がある。利用者視点の考え方で、職員が提供したい支援ではなく、利用者がしてほしい支援を考える話し合いが期待される。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の聞き取りを密に行い、生育歴、性格、趣味趣向等の把握に努め、其れまでの生活との乖離をできる限り少なくできるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状況の確認、職員間の引継ぎ、申し送り等にて、実施している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者の計画をもとに、実施→モニタリング→再アセスメント→計画変更の一連のケアマネジメントに沿って援助している。もちろん、本人、家族、介護者の意向確認及び調整も実施している。	基本的に介護認定の更新時、状態変化時に、支援内容の検討と、介護計画の更新を行っている。定期的にモニタリングを実施し、利用者の状態を把握、記録している。家族意向は、できる限りサービス担当者会議で聴取するように努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアアプリの導入(2022/9/1~)により、より効果的な連携ができています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族状況により、適切に柔軟に対応している。ホーム、職員都合とならないように、管理者が目配っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ下において、外部との関わりが遮断されている状況が続いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医との連携を密にとっています。必要に応じ、専門医療機関への受診も含め、安心できる医療体制をとっている。	ホーム協力医の月2回の訪問診療を支援している。医療連携看護師は、協力医系列の訪問看護師が週1回来訪し、利用者の健康管理を行い、医師と連携している。専門医の受診や通院は原則家族対応をお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	17名のご入居者に対して、訪問医、訪問看護師が関わっているため、ほぼ毎日医療従事者の来設がある。都度対象利用者だけではなく、必要に応じ、疑問、心配になることを相談できる体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供(医師→医療機関)介護サマリー(施設→医療機関)を行っている。電話での連絡調整、状況の把握、関係機関との関係作りにも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の説明。また、それぞれの段階に応じて本人、家族や往診医の意見を基に方針を決めている。重度化した時には家族と相談をし、必要であれば、他施設の情報を提供している。	入居契約時に、重度化にかかわるホームの方針を説明し、同意を得ている。終末期までの支援希望は多く、本人の状態変化の都度、医師を交えて話し合い、ホームでできる支援と方法を明確に説明し、その後の方針を決定している。この1年で2名の利用者をお見送りしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	関係医療機関の24時間医療サポートがあるため、職員に安心感がある。各種マニュアルを提示し、緊急時対応に備えている。定期的な研修の実施を今後検討している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練を実施。また、区長を通じ、緊急時の協力関係の打診をしており、お互い、協力関係を作ることに同意している。	年2回の避難訓練を計画し、実施している。必要備品・食料の備蓄は本部管理となっており、必要量を万全に準備し、有事に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけ、対応には、左記の 人格、誇り、プライバシーへの関心を常にもちつつ実施するよう、日々管理者から声かけしている。	認知症介護にかかわる勉強会を実施している(コロナ禍の現在は資料配布が多くなっている)。職員には認知症理解が適切な支援につながることを伝え、日常支援のなかでの指導に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中から、できるだけ、本人からの意向が出せるように関わるようにしているとともに、実施できるようにしているものの、なかなか意見表出できない方の本意をどれだけ組めているか不安が残る。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけその人らしい一日を送れるように支援してはいる。但し、職員ペースで事を進めようとする場面も見受けられるため、日々職員の動きをみつつ、必要に応じ指導している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員の都合を押し付けるのではなく、本人の希望される身だしなみができるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	主に片付けを利用者様と一緒にしている。入居者の意向を聞きつつ、メニュー作りをしている。	2ユニットが別々のメニューで、3食手作りの家庭料理を提供している。コロナ禍で食事の仕方も変化があり、一緒に食事ができなかつたり、会話をしなかつたりであったが、コロナ等の感染状況を見ながら、少しずつ改善の方向が見えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人に合った食事形態で食事を提供して。食事量、水分摂取量の記録をとり、十分に取れるよう配慮している。また、それらを通じ健康管理にも繋げている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアは必ず行っている。毎週訪問歯科医、歯科衛生士による指導があり、口腔内のケアをしている。義歯の管理も汚れないよう十分注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々記録をとり、変化に気づくようにしている。定期的に排泄方法の確認をとり、検討している。	トイレ排泄を基本に支援している。現在、重度化傾向にあり、全員が介助を必要とする状態である。利用者一人ひとりの状態を把握し、最善の支援方法を検討して実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表にて個々の排便状況を把握し、水分摂取や散歩・運動を取り入れ支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には週二回～三回の入浴をしていただいている。入浴に関しては、職員ペースでの入浴日時となっている。但し、ご希望あれば、日時の変更、回数の増減など、柔軟に対応している。	原則毎日の入浴を提供し、清潔保持の観点から、最低週2回の入浴ができるように、入浴管理を行っている。体調がすぐれなかったり、気分が向かなかったりする場合は、無理強くないく、足浴や清拭に切り替えて、清潔を保持している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室への出入りは自由にしており、適宜、ご自身のペースで休息をとられている。夜間は安眠を妨害しないように環境整備に努めている。寝具等の管理も定期的に行い、清潔に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のセットから服薬まで4重チェックを行っている。誤薬ないように声出し確認も実施。薬情報報告書をいつでも見られるところに置き、薬の内容、副作用の理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や特技など個別性に配慮しつつ、活動内容を取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ下において、外出はできていない。日々の散歩は日課としており、よほどの降雨、極寒暑日以外は、短距離でも屋外の空気を味わえるようにしている。	コロナ禍の自粛は続き、近隣の散歩には頻回に出るようになっている。5月の緩和を待ち、コロナ禍以前のような外出ができるように、期待を持っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の個人管理はしていない。但し、精神的な安定のために、小銭程度(1000円位)の居室への持ち込みはしている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会、電話、手紙のコミュニケーションを行っている。コロナ最盛期には、オンラインによる面会も実施。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が制作したものや季節を感じていただけるものを飾るなどして、四季を感じられるように配慮している。また、安全面についても十分配慮している。	コロナ禍のため、共有空間への立ち入りを自粛し、視察無し。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな場所で過ごしていただけるようソファーやダイニングテーブルを用意し、落ち着いて過ごしていただけるようにしている。また、事務所もオープンにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	新しいものではなく、ご自宅にあった使い慣れたものを持ってきていただいている。趣味的なもの、写真等掲示。また、テレビの持参もあり。	コロナ禍のため、居室への立ち入りを自粛し、視察無し。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内全面バリアフリー。手すりの配備あり。安全面に配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393800103		
法人名	株式会社 イズミ		
事業所名	グループホーム 希望の泉(2階Bユニット)		
所在地	愛知県小牧市小牧原二丁目340番地		
自己評価作成日	令和5年3月1日	評価結果市町村受理日	令和6年4月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosyoCd=2393800103-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和5年3月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設理念1、笑顔がいっぱい・笑いがいっぱいの希望にあふれる施設を目指します。
 2、常にご利用者様、ご家族様の気持ちを第一に考えます。
 3、地域に信頼される施設作りを目指します。
 開所以来ずっとこの施設理念を職員一人一人が理解し介護しています。
 入居者が心地よく、安全、安心して生活できることを最低限の使命とし、それ以上の生活の質の向上に努めるようにしています。ホーム、職員都合を厳しく戒め、入居者、家族ファーストで対応できるように努めます。
 当たり前のことを当たり前と、入居者、家族、職員、他関係者が思えるようなホームにしていきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--	--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に施設理念を掲示し、適宜確認している。 介護現場では、理念に添えるように対応するとともに、相互に確認している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ下において、外部、地域とのつながりは遮断されている状況。今後の施策により、柔軟に対応していく予定。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	上記同様、外部との接触はほぼない。但し、電話等での相談には適切に対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	対面会議の開催ができていない(小牧市内で対面で実施しているホームは、一つのみと聞いている。最終会(2月開催)の報告とともに、出席者へのアンケートを実施した。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議内容の書面報告、事故報告書の提出など行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。 会議や研修にて、身体拘束について、周知徹底している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な虐待防止についての資料配布に留まっている。また、日常的に管理者が確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見人のある入居者が2名いる。後見人との連携を密にし、後見人の業務内容の把握に努めている。また、職員への周知も行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人、家族への説明を徹底しているとともに、書面での確認をしている。不安、疑問のないように対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の意見・要望は、電話や面会時聴取している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケアアプリでの意見交換、日々のコミュニケーション、朝礼、ミーティング、職員会議等にて実施している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価を年2回実施。職員との面談を通じてお互いの課題、改善点を協議。他、年末年始手当、夏季特別休暇有。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の施設長会議にて、各ホーム内の状況の把握及び改善点等の意見交換を実施。また、人事評価にて各スタッフの状況を把握。法人内研修の実施。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の介護事業所連絡会に所属。定期的な会合、連絡会主催の会議、研修会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族からの聴き取り、状況把握に努めている。介護計画の作成、実施、モニタリングの実施。定期的な要望等の聞き取りを、計画作成者を中心に行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人、家族からの聴き取り、状況把握に努めている。また、サービス開始直後は、特に連絡を密にとり、状況の説明、家族からの要望を聴き取るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	優先順位を確定し、遅滞なく実施しているように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームの理念に基づき一方的な介護にならず、共に生活を送る同士としての関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会、電話、手紙等のコミュニケーション手段を制限せず、本人、家族の関わりを絶たないようにしている。家族の意向、本人の意向、職員の意向の調整を図るようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ下において、制限あり。但し、できる限りの手段(電話、手紙、面会、遠隔面会)で可能な限り対応する努力をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共に生活する仲間として、各人が各人を尊重し合い生活できるように援助している。但し関係上、好き嫌いの問題もあり、事前にトラブルにならないように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去家族からの、他者の入居相談等あり、できる限り関係作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画作成者を中心に、本人、家族、職員と連携をとりつつ、本人の意向を第一に考えるようにしている。聴き取りの難しい方については、それまでの生活歴等も考慮に入れつつ、検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の聞き取りを密に行い、生育歴、性格、趣味趣向等の把握に努め、其れまでの生活との乖離をできる限り少なくできるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状況の確認、職員間の引継ぎ、申し送り等にて、実施している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者の計画をもとに、実施→モニタリング→再アセスメント→計画変更の一連のケアマネジメントに沿って援助している。もちろん、本人、家族、介護者の意向確認及び調整も実施している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアアプリの導入(2022/9/1～)により、より効果的な連携ができています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族状況により、適切に柔軟に対応している。ホーム、職員都合とならないように、管理者が目を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ下において、外部との関わりが遮断されている状況が継続している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医との連携を密にとっています。必要に応じ、専門医療機関への受診も含め、安心できる医療体制をとっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	17名のご入居者に対して、訪問医、訪問看護師が関わっているため、ほぼ毎日医療従事者の来設がある。都度対象利用者だけではなく、必要に応じ、疑問、心配になることを相談できる体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供(医師→医療機関)介護サマリー(施設→医療機関)を行っている。電話での連絡調整、状況の把握、関係機関との関係作りにも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の説明。また、それぞれの段階に応じて本人、家族や往診医の意見を基に方針を決めている。重度化した時には家族と相談をし、必要であれば、他施設の情報を提供している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	関係医療機関の24時間医療サポートがあるため、職員に安心感がある。各種マニュアルを提示し、緊急時対応に備えている。定期的な研修の実施を今後検討している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練を実施。また、区長を通じ、緊急時の協力関係の打診をしており、お互い、協力関係を作ることに同意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけ、対応には、左記の 人格、誇り、プライバシーへの関心を常にもちつつ実施するよう、日々管理者から声かけしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中から、できるだけ、本人からの意向が出せるように関わっているとともに、実施できるようにしているものの、なかなか意見表出できない方の本意をどれだけ組めているか不安が残る。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけその人らしい一日を送れるように支援してはいる。但し、職員ペースで事を進めようとする場面も見受けられるため、日々職員の動きをみつつ、必要に応じ指導している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員の都合を押し付けるのではなく、本人の希望される身だしなみができるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な準備、片付けを入居者とともにしている。食事は業者に材料委託しており、メニューも確定しているので、入居者の意向の反映はできていない状況。おやつのみ、意向に添えるようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人に合った食事形態で食事を提供している。食事量、水分摂取量の記録をとり、十分に取れるよう配慮している。また、それらを通じ健康管理にも繋げている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアは必ず行っている。毎週訪問歯科医、歯科衛生士による指導があり、口腔内のケアをしている。義歯の管理も汚れないよう十分注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々記録をとり、変化に気づくようにしている。定期的に排泄方法の確認をとり、検討している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表にて個々の排便状況を把握し、水分摂取や散歩・運動を取り入れ支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には週二回～三回の入浴をしていた。入浴に関しては、職員ペースでの入浴日時となっている。但し、ご希望あれば、日時の変更、回数が増減など、柔軟に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室への出入りは自由にしてあり、適宜、ご自身のペースで休息をとられている。夜間は安眠を妨害しないように環境整備に努めている。寝具等の管理も定期的に行い、清潔に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のセットから服薬まで4重チェックを行っている。誤薬ないように声出し確認も実施。薬情報報告書をいつでも見られるところに置き、薬の内容、副作用の理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や特技など個別性に配慮しつつ、活動内容を取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ下において、外出はできていなし。日々の散歩は日課としており、よほどの降雨、極寒暑日以外は、短距離でも屋外の空気を味わえるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の個人管理はしていない。但し、精神的な安定のために、小銭程度(1000円位)の居室への持ち込みはしている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会、電話、手紙のコミュニケーションを行っている。コロナ最盛期には、オンラインによる面会も実施。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が制作したものや季節を感じていただけるものを飾るなどして、四季を感じられるように配慮している。また、安全面についても十分配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お好きな場所で過ごしていただけるようソファやダイニングテーブルを用意し、落ち着いて過ごしていただけるようにしている。また、事務所もオープンにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	新しいものではなく、ご自宅にあった使い慣れたものを持ってきていただいている。趣味的なもの、写真等掲示。また、テレビの持参もあり。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内全面バリアフリー。手すりの配備あり。安全面に配慮している。		